

令和7年度 第6回臨時理事会

会 議 次 第

令和8年1月15日（木）午前10時00分～

事務局 共用会議室（日本パーティビル地下会議室）

1 開 会

2 議事録署名人の確認

3 審 議 事 項

第1号議案 役員賠償責任保険の契約について

4 報 告 事 項

東京2025デフリンピックに関する報告について

5 そ の 他

6 閉 会

理 事 会
第 1 号 議 案

役員賠償責任保険の契約について

下記のとおり議案を提出する。

記

1 議案内容

役員賠償責任保険について、別紙の内容で令和6年度及び7年度の契約を行ったことを追認する。

令和8年1月15日

提 出 者 公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団
理 事 長 塩 見 清 仁

提 案 理 由

当事業団が締結する役員賠償責任保険については令和6年度から年度ごとに加入しているが、「会社法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」の施行（令和3年3月1日）に伴い、同日改正施行された「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」の第118条の3第1項の規定に基づき、保険契約の内容について契約締結前に決議を行う必要があったところ、改正内容の把握が漏れたため、追認決議を行う。

令和6年度及び7年度役員賠償責任保険 契約内容

保険契約者	公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団
被保険者	当事業団の理事、監事
保険期間	①令和6年4月1日から令和7年4月1日まで ②令和7年4月1日から令和8年4月1日まで
契約保険会社	株式会社損保ジャパン
保険金額	2億円
保険内容	役員 of 第三者に対する責任への損害賠償金及び争訟費用
免責金額	なし
合計保険料	①、②とも216,720円

- 大会名称 : 第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 (正式名称)
東京2025デフリンピック (略称)
- 開催期間 : 2025年11月15日 (土) から26日 (水) まで12日間
- 競技・種目数 : 21競技・209種目
- 参加国・地域 : 79か国・地域等 ※ICSD速報値
- 参加選手数 : 約2,800名 ※速報値
- 競技会場数 : 21会場

※ 参加実績は精査中

(1) 大会の実施報告について
① 大会実績報告 (2025年12月時点)
-日本人選手の活躍・大会の記録-

報告事項 (1) ①



- 日本メダル獲得数 (過去最高) 51個 (金 : 16、銀 : 12、銅 : 23)
- メダル獲得国・地域 54か国・地域
- 世界デフ新記録 39件
- デフリンピック新記録 62件

※記録はICSD速報値

(1) 大会の実施報告について

① 大会実績報告 (2025年12月時点)

-過去最多のメダルを獲得した日本選手団-

メダル獲得総数 (日本選手団) : 51個

各国選手団のメダル獲得総数 (上位10カ国)

	国名	メダル獲得			
		総数	金	銀	銅
1	 ウクライナ	100	32	39	29
2	 日本	51	16	12	23
3	 中華人民共和国	50	12	16	22
4	 大韓民国	43	11	13	19
5	 イラン	37	8	10	19
6	 アメリカ	36	17	7	12
7	 トルコ	26	2	8	16
8	 カザフスタン	25	8	4	13
9	 ドイツ	24	6	8	10
10	 イタリア	21	8	8	5

(1) 大会の実施報告について

① 大会実績報告 (2025年12月時点)

-多くの方が来場・観戦し、次の100年につながる大会に-

報告事項 (1) ①

大勢の観客の前でアスリートが躍動

- 予想を大きく上回る約28万人もの観客が来場
- サインエールや競技の合間のイベントにより観客との一体感を醸成
- 多数のデフ世界新記録が誕生



コミュニケーションの壁を超え、交流の場を創出

- 年齢や国籍、きこえない・きこえにくいに関わらず、誰もがスポーツを楽しむ、応援し、交流することを実現
- 大会を通じて、共生社会を築き上げていくための大きな第一歩を踏むことができた



(1) 大会の実施報告について

① 大会実績報告 (2025年12月時点)

-多くの方が来場・観戦-

報告事項 (1) ①



競技会場	281,235人
デフリンピックスクエア	57,168人
子供観戦	約50,000人

※全来場者数の内数
※数値は延べ数

(1) 大会の実施報告について

① 大会実績報告 (2025年12月時点)

-多くの観客が集まり、盛り上がりを見せた競技会場-

総来場者数 : 281,235人

競技別入場者数 (上位10競技)

- 陸上 54,855人 (9日間)
- バレーボール 42,900人 (9日間)
- バasketボール 29,181人 (10日間)
- バドミントン 28,714人 (9日間)
- 卓球 24,651人 (6日間)
- 水泳 16,835人 (6日間)
- ハンドボール 15,857人 (6日間)
- サッカー 15,430人 (12日間)
- テニス 12,029人 (10日間)
- 柔道 5,982人 (3日間)



(1) 大会の実施報告について

① 大会実績報告 (2025年12月時点)

-様々なプログラムを展開した、デフリンピックスクエア-

中央広場

- フォトスポット
- スタンプラリー
- 被災地PRブース
- 応援隊マスコットグリーティング
- キャラバンカー
- ヘブンアーティスト公演



桜花亭

- 茶道・着付け・生け花体験



カルチャー棟

- ホールコンテンツ (例: 手話狂言、トークショー、パブリックビューイングなど)
- 提灯リコグニション
- カフェスペース (例: スターバックス【協賛】によるコーヒー提供 (無料))
- みるTech
- 東京観光情報センター
- アニメ東京ステーション



国際交流棟

(選手・大会関係者向け)

- 選手交流ラウンジ (例: パブリックビューイング、伝統おもちゃ体験)
- おもてなしエリア (縁日)
- 東京観光ツアー
- 銭湯PR
- 折り紙体験
- 応援メッセージ



(1) 大会の実施報告について

① 大会実績報告 (2025年12月時点)

-様々な方からの支え-

報告事項 (1) ①



ボランティア	2,959人
サポートスタッフ (筑波技術大学・協賛者)	706人
手話言語通訳者	241人
協賛者	(国際手話 100人、日本手話言語 141人)
	合計160者

国際手話通訳・日本手話言語通訳者の活躍

- 国際手話通訳者100人と日本手話言語通訳者141人が協働
- 競技会場、開閉会式、記者会見など多岐に亘る場面での通訳を実施



ボランティア

- 障害の有無や年齢、国籍などに関わらず、2,959人のボランティアが参加
- 各会場等での案内・誘導をはじめ、様々な場面で運営をサポート



国立大学法人筑波技術大学

- 筑波技術大学の学生98人が大会サポートスタッフとして参画
- きこえない当事者としての視点を生かし、きめ細やかな対応を実施



協賛者

- 協賛者の社員608人が大会サポートスタッフとして大会の運営に参画
- 各会場等での案内・誘導をはじめ、様々な場面で運営をサポート



(1) 大会の実施報告について

① 大会実績報告 (2025年12月時点)

-協賛者による主な支援-

ユニフォーム (株式会社アシックス)

- 大会スタッフやボランティア等に対するスポーツウエア・ポーチの支給
- 手話表現の見やすさに配慮し、手話通訳者にはダークカラーのウエアを支給いただくなど、情報保障に対応したサポートを提供



車両 (トヨタ自動車株式会社)

- 選手や関係者の輸送車両の提供等による大会運営支援



SIMカード等 (ソフトバンク株式会社)

- 選手や関係者に対するスマートフォン・タブレット・SIMカードの無償提供
- 端末利用をサポートするヘルプデスクの設置



(1) 大会の実施報告について

① 大会実績報告 (2025年12月時点)

-多くの人々・メディアが注目-

報告事項 (1) ①



メディア取材数 **2,481媒体 3,976人**
(競技会場のみ・数値は延べ数)

競技動画再生数 **3,245,533回**
(11月27日15時時点)

SNS登録者数 **X : 5,350人**
(12月1日時点)
Instagram : 25,285人
YouTube : 36,800人

ユニバーサルコミュニケーション (UC) の促進

- 全競技会場において、透明ディスプレイ等を活用した多言語テキストによる案内、ビジョンやモニター上での場内アナウンスの多言語テキスト表示等を実施
- 一部の競技会場では、音が見える、音を感じる最新技術を活用し、新しい観戦体験の場を提供



サインエール

- 日本の手話言語をベースに複数の動きを組み合わせ視覚的な動きでデファスリートに応援を伝える新しい応援スタイル
- 複数の競技会場に応援団を派遣し、きこえる人ときこえない人が一体となって応援することで、選手の活躍を後押し



(1) 大会の実施報告について

① 大会実績報告 (2025年12月時点) -大会を総括するコメント-

ICSD アダム・コーサ会長のコメント (11/26記者会見)

2025は、ハイレベルの競技、また準備・設営という部分でもハイレベルな大会でした。私たちICSDは、この大会に十分満足しています。多くの競技関係者からも、すばらしい大会であったというコメントをいただきました。

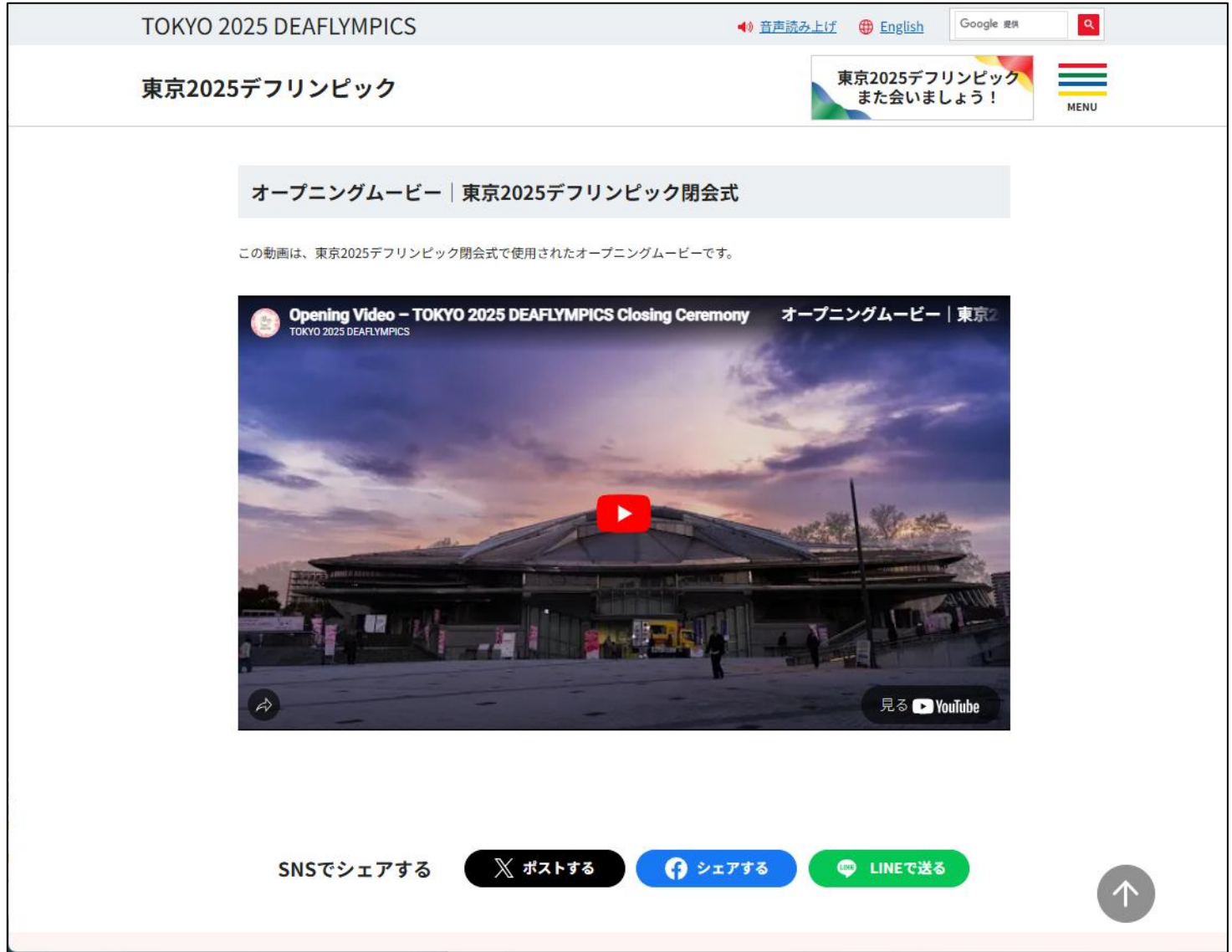


久松委員長長のコメント (11/26記者会見)

今大会の大きな特徴・課題として、当事者である全日本ろうあ連盟ときこえる人たちである事業団や行政の皆さんとで、どのようにコミュニケーション取りながら運営していくのか、という点が挙げられます。まさしく、大会の場では、様々なコミュニケーションの壁がありましたが、それを乗り越えて、お互いにコミュニケーションを円滑に築き上げたことが、この大会の成功に結び付いたと思います。



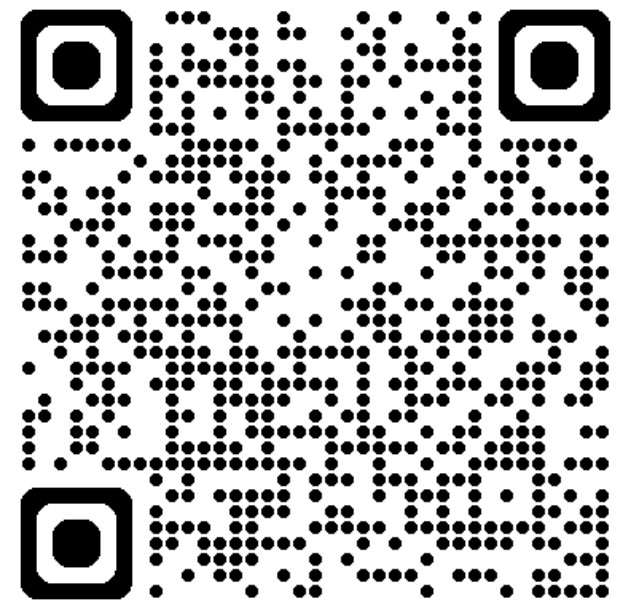
東京2025デフリンピック閉会式オープニングムービー



The screenshot shows the website interface for the Tokyo 2025 Deaflympics. At the top, there is a navigation bar with the text 'TOKYO 2025 DEAFLYMPICS' and a search bar. Below this, the main header area contains the text '東京2025デフリンピック' and a 'MENU' button. The main content area features a video player with the title 'オープニングムービー | 東京2025デフリンピック閉会式'. Below the title, a small text line reads 'この動画は、東京2025デフリンピック閉会式で使用されたオープニングムービーです。'. The video player itself shows a thumbnail of a large stadium at dusk with a red play button in the center. The video title is 'Opening Video - TOKYO 2025 DEAFLYMPICS Closing Ceremony' and 'オープニングムービー | 東京2025'. At the bottom of the page, there are social media sharing buttons for 'SNSでシェアする', 'ポストする', 'シェアする', and 'LINEで送る', along with an upward arrow icon.

※参考リンク

<https://deaflympics2025-games.jp/Watch-the-Games/highlights/#gsc.tab=0>



- 大会運営の軌跡を記録し、大会関係者へ報告するとともに、大会を通じて得た経験等をレガシーとして後世に継承
- デフリンピック規約において作成が義務付けられており、国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD)に提出
- (一財)全日本ろうあ連盟、東京都、(公財)東京都スポーツ文化事業団の3者で発行

主な内容

- **第1章 大会概要** <大会ビジョン、大会がもたらしたもの、デフリンピックの説明、大会エンブレム、大会メインカラー、競技日程及び会場>
- **第2章 大会前の取組** <大会の立候補から招致活動・経緯・決定、準備・運営体制、ガバナンスの確保、大会に向けた各競技の実地検証、開催に向けた気運醸成>
- **第3章 大会運営** <運営主体の3者が一体となった大会運営、リエゾンの活用等選手団とのコミュニケーション、デフスポーツの特性等に配慮した競技・会場運営、デフリンピックスクエアでの様々な取組、誰しもが楽しむことができる式典、選手団に対する円滑な輸送サービス、選手団が競技に集中できる宿泊環境等様々なサービスの提供、怪我や救護に速やかに対処できる救護サービス>
- **第4章 大会スタッフ及びボランティア** <大会運営を担うスタッフの確保、ボランティア・手話言語通訳・サポートスタッフ等が様々な場面で大会運営をサポート>
- **第5章 財務** <協賛者の支援、寄付・募金などを通しての大会への参画、「シンプルで心に残る大会」となる大会経費>
- **第6章 大会に向けた共生社会実現に資する取組** <大会を契機としたユニバーサルコミュニケーションの促進、子供たちの競技観戦やデフスポーツの体験活動の実施及び大会への参画、きこえる人ときこえない人が一体となったサインエールでの応援>
- **第7章 レガシー** <新たな技術と相互理解を通じて人々がつながる共生社会への歩みを加速、子どもたちが“スポーツの力”を実感、今後のスポーツ大会のモデル>

今後のスケジュール (案)

- 令和8年1月15日 事業団理事会にて作成概要を報告
- 令和8年3月11日 事業団理事会にて完成版を報告
- 令和8年3月中旬 ICSDへ英語版(データ)を送付
- 令和8年3月下旬 公表、事業団理事会にて製本(日本語版)を配布



<表紙>



<イメージ>